

[成果情報名] 水稲品種「おてんとそだち」の「ヒノヒカリ」、「にこまる」と比較した育苗時の生育特性

[要約] 水稲品種「おてんとそだち」の苗は「ヒノヒカリ」に比べて伸びやすいが、「にこまる」と比べると伸びにくい。「おてんとそだち」は苗の充実度が高く、硬化開始時期が播種後 3～5 日の間で苗の充実度と、根張りに差はない。

[キーワード] 水稲、おてんとそだち、育苗

[担当] 長崎県農林技術開発センター・農産園芸研究部門・作物研究室

[連絡先] (代表)0957-26-3330、(直通)0957-26-4350

[区分] 農産

[分類] 指導

[作成年度] 2013 年度

[背景・ねらい]

本県では、2012 年に高温登熟性に優れた水稲品種「おてんとそだち」を奨励品種に採用し、2013 年から県央平坦地において「ヒノヒカリ」に替わり「にこまる」との作期分散がはかれる品種として導入されている。「おてんとそだち」は短稈で倒伏しにくい特性はあきらかになっているが、苗の生育特性については未解明な部分があるため、普及拡大の阻害要因となりえる。

そこで、普通期水稲で一般的な 20 日間程度の育苗期間について「おてんとそだち」の苗の生育特性を明らかにし、健苗育苗のための基礎資料とする。

[成果の内容・特徴]

1. 「おてんとそだち」の苗長は硬化開始時期、播種後 16 日（移植前）ともに同一条件で育苗した「ヒノヒカリ」に比べやや長く、「にこまる」に比べてやや短い。また、苗の充実度は「おてんとそだち」が「ヒノヒカリ」、「にこまる」に比べて高い（表 1）。
2. 「おてんとそだち」の苗の充実度は高く、硬化開始時期が播種後 3～5 日の間で差はない（表 1）。
3. 「おてんとそだち」の苗の根張は硬化開始時期が播種後 3～5 日の間で差はなく、苗崩れしない（写真 1）。

[成果の活用面・留意点]

1. 本試験は「ヒノヒカリ」、「にこまる」は 2010 年産、「おてんとそだち」は 2012 年産の種子を播種し、出芽温度 28℃で 3 日間、緑化温度を昼間 25℃、夜 17℃に設定した段階加温育苗で行った。

[具体的データ]

表1 硬化開始時と移植前の苗の生育 (2013年)

品種名	播種後	硬化開始時期		播種後16日 (移植前)
	日数 (日)	苗長 (cm)	苗長 (cm)	充実度 (乾物/苗長)
おてんとそだち	3	2.6	14.6	0.49
	4	3.5	15.7	0.44
	5	6.2	17.0	0.45
ヒノヒカリ	3	2.4	13.4	0.45
	4	3.6	15.2	0.39
	5	5.0	15.6	0.37
にこまる	3	2.8	15.4	0.37
	4	4.0	18.3	0.32
	5	6.5	17.1	0.35

注1) 播種は2013年6月25日、乾籾120g/箱

2) 用いた種子の発芽率は「おてんとそだち」:99%、「ヒノヒカリ」:94%、「にこまる」:100%



播種後3日目に硬化を開始



播種後4日目に硬化開始



播種後5日目に硬化開始

写真1 「おてんとそだち」の播種後16日の苗の根張り

[その他]

研究課題名: 稲・麦・大豆奨励品種決定調査

予算区分: 県単

研究期間: 2013年

研究担当者: 中山美幸、江里口正晴